

教育研究業績書

2025年05月07日

所属：スポーツマネジメント学科

資格：准教授

氏名：宇野 博武

研究分野	研究内容のキーワード
健康・スポーツ科学、経営学、マーケティング	体育・スポーツ経営学、スポーツマネジメント、サービス・マーケティング、プロスポーツ、オペレーションの柔軟性、組織レジリエンス
学位	最終学歴
修士（体育学）	神戸大学大学院経営学研究科博士後期課程（在学中）

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
----	-----	----

1 教育方法の実践例

1. 高松大学授業評価（令和3年度）による教員表彰	2022年6月	令和3年度の高松大学授業評価（学生の授業評価）の結果、総合評点で最高点を獲得したため、表彰を受けた。
2. 高松大学「学生による授業評価」優秀者(2018年度)表彰	2019年9月	高松大学において、2018年度「学生による授業評価」で最高評価点を得た教員として表彰された。
3. SPOD研修会の継続受講による授業実践力の向上	2018年9月～2020年9月	四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD)のFD研修会に参加し授業実践力の向上に努めた。「よりよい授業のためのFDワークショップ」(2018年度)、「基礎から学ぶ学習評価法」(2019年度)、「学生の学びやすさと学習意欲を高める授業設計：課題分析図の活用」(2020年度)
4. 研究授業「スポーツ経営学」の実施	2018年8月	高松大学において、学部から推薦を受け、「スポーツ経営学」講義の研究授業を実施した。授業後には検討会を実施し、講義の内容や教授方法についての改善点を検討した。

2 作成した教科書、教材

1. 「スポーツガバナンス論」の教材開発	2024年4月～現在	2024年度より、講義「スポーツガバナンス論」の教材開発・改善を重ねている。非営利組織のガバナンス機能を整理した『非営利組織のガバナンス：3つのモードを使いこなす理事会』（リチャード・P・チェイトほか）に依拠して、本授業はスポーツ組織のガバナンス機能を3つの観点（受託者責任、創発的思考、戦略的思考）から効果的に学習できるように設計されている。
2. 「スポーツ産業と政策」の教材開発	2023年4月～現在	2023年度より、講義「スポーツ産業と政策」の教材開発・改善を重ねている。参考文献『スポーツ産業論』（原田宗彦編）
3. 「プロスポーツ経営論」の教材開発	2022年9月～2023年1月	2022年度、講義「プロスポーツ経営論」（IPU・環太平洋大学、非常勤講師）の教材開発・改善に取り組んだ。同教材は、体育・スポーツ経営学の知見をベースに、これまで蓄積されてきたプロスポーツ経営研究の研究成果を効果的に学習できるように工夫されたものである。
4. 「スポーツメディア論」の教材開発	2019年9月～現在	講義「スポーツメディア論」（IPU・環太平洋大学、非常勤講師）の教材開発・改善に取り組んでいる。なお、同教材は、スポーツメディアあるいはメディアスポーツを対象として蓄積されたスポーツ社会学的知見を効果的に学習できるように工夫されたものである。
5. 「スポーツ経営学」および「体育経営管理学」の教材開発	2017年4月～現在	2017年から5年間にわたり、講義「スポーツ経営学」（高松大学）の教材開発・改善を重ねた。この実績を応用し、2020年からは講義「体育経営管理学」（関西福祉大学、非常勤講師）の教材開発・改善に取り組んでいる。
6. 「スポーツ社会学」の教材開発	2017年4月～2022年3月	2017年から約5年間、講義「スポーツ社会学」の教材開発・改善を重ねた。参考文献『体育・スポーツ社会学講義』（森川貞夫・佐伯聰夫 編著、2002年）

3 実務の経験を有する者についての特記事項

1. 第115回構想設計コンソーシアム会合での話題提供と議論参加	2023年12月1日	国立研究開発法人産業技術総合研究所の開催するコンソーシアムにおいて、既存発表論文をベースとした話
----------------------------------	------------	--

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
2. 高松市女木コミュニティセンター講座の講師	2019年10月	題提供をおこなった。具体的には、Jリーグクラブの事業活動を事例として、文化産業において生じる本質主義に関わる問題について問題提起ならびに議論をおこなった。
3. 町民大学(仲南大学)の講師	2018年11月	香川県高松市女木コミュニティセンターが実施する町民大学の講師を務めた。テーマ「スポーツの見方を変える：フットボールの歴史を題材として」 香川県まんのう町の町民大学(仲南大学)で講師を務めた。テーマ「スポーツの見方を変える：フットボールの歴史を題材として」
4 その他		
1. 幹事会の顧問	2024年4月～現在	2024年度より、健康・スポーツ科学部における幹事会の顧問を務めている。顧問として、各クラスより選出された学生幹事を監督し、学生と教員の交流を深めるとともに学生からの学生生活に関する意見収集を目的とした幹事懇談会の企画・実施に尽力している。
2. 健康・スポーツ科学会の顧問	2023年4月～現在	2023年度より、武庫川女子大学健康・スポーツ科学部の学生および教員によって組織される健康・スポーツ科学会の顧問を務めている。顧問として科学会の委員に選出された学生を監督し、学術講演会を開催するほか躍動という機関誌の発行に尽力している。
3. 学外におけるスポーツマネジメント教育	2022年4月～現在	2022年度より、大阪国際大学を中心として組織された、関西におけるスポーツビジネスあるいはスポーツマネジメントの指導に関わる大学教員コミュニティに参加。毎年、4～5大学の合同ゼミ学習交流会を企画・実施し、ゼミ生とともに参加し、ゼミ生の学外における教育活動の支援に努めている。
4. ゼミ指導	2017年4月～現在	高松大学では2017年から5年間にわたり毎年20名前後(2～4年生)のゼミ生を指導した。指導内容は、就職活動(履歴書添削、面接練習など)ならびに学習指導(卒業研究の指導、遅刻・欠席の指導など)であった。その後、2022年4月からは武庫川女子大学でもゼミを担当している。
5. スポーツ実技科目の担当	2017年4月～現在	高松大学では2017年から5年間にわたり3つのスポーツ実技科目を担当した(「健康とスポーツ実習」など)。2022年からは武庫川女子大学において「フットサル」の実技を担当している。
職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 高等学校教諭一種免許状(保健体育)	2012年3月	平23高1第224号
2. 中学校教諭一種免許状(保健体育)	2012年3月	平23中1第187号
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 三豊市指定管理者候補者審査委員会委員	2020年8月～10月	香川県三豊市の任命を受け、三豊市緑ヶ丘総合運動公園の指定管理者の選定委員を務めた。
2. 日本体育協会講習会の講師	2017年12月	日本体育協会公認上級指導委員養成講習会の共通科目である「スポーツ組織の運営と事業」の講師を務めた。
3. OSAKAスポーツ大学研修講座の講師	2017年10月	大阪市が主催する市民向け講座である「OSAKAスポーツ大学」においてスポーツボランティアに関する研修講座の講師を務めた。
4 その他		
1. プロスポーツクラブ・球団関係者との勉強会の企画	2024年9月9日	株式会社NextStairsと連携し、プロスポーツクラブ・球団関係者を対象とした勉強会を企画している。同勉強会では、『オフサイドはなぜ反則か』(中村敏雄著、1985年)を課題文献に設定し、プロスポーツクラブ・球団関係者が近代スポーツの特徴やスポーツ文化

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
2. スポーツビジネス系メディアを活用した研究成果の発表	2024年6月28日、7月5日	<p>の流動性・恣意的な性格を学習できるように工夫している。現在、クラブ・球団関係者3名と本学学生4名の参加希望がある。</p> <p>株式会社NextStairsが運営するスポーツビジネス関連のWEBメディア「SpoShip」の取材に応じ、既存発表論文「ファジアーノ岡山スポーツクラブにおける新事業『Fagiversity』の事例研究」に関するWEB記事を発表した。</p>
3. 自主勉強会「歴史研究の方法について」の実施	2024年6月6日	<p>歴史研究の方法について理解を深めるための勉強会を企画・実施した。勉強会では『経済史への招待：歴史学と経済学のはざまへ』（カルロ・マリア チボツラ著）を課題文献に設定した。他大学の院生および教員6名が参加し、課題文献から得られる洞察を議論し、体育・スポーツ経営学における歴史研究の応用や、歴史研究と事例研究法との違い、歴史研究の意義などについて意見交換をした。</p>
4. 自主勉強会「事例研究法について」の実施	2024年6月4日	<p>事例研究法について理解を深めるための勉強会を企画・実施した。同勉強会には、他大学の院生および教員3名が参加した。勉強会では、はじめに私から「事例の選定」「データの収集」「データの分析」の観点から、妥当性・信頼性の高い研究成果を得るための事例研究法の工夫について概説し、参加者と意見交換をおこなっていった。課題文献には『ブラックスワンの経営学：通説をくつがえした世界最優秀ケーススタディ』（井上達彦著）を設定した。</p>
5. 学生委員	2024年4月～現在	<p>2024年4月より、武庫川女子大学健康・スポーツ科学部の学生委員を務める。学部および全学的な学生支援に関わる業務に取り組んでいる。なお、2023年度は学生委員の副担当を務めていた。</p>
6. 土佐女子高等学校ガイダンスでの模擬授業	2020年11月	<p>高松大学において、土佐女子高等学校のガイダンスに参加し、模擬授業を実施した。テーマ「経営学を学ぼう！：マネジメントにチャレンジ！」</p>
7. 国外（インドネシア）入学試験の調整・実施	2018年9月	<p>高松大学において、ジェンデラルスディルマン大学（インドネシア）の学生を対象とした入学試験を実施するため、現地担当者との連絡・調整を行い、インドネシア現地に赴き、入学試験を実施した。</p>
8. ベトナム人留学生への大学説明会の調整・実施	2018年8月	<p>高松大学において、在日ベトナム学生青年協会との連絡・調整に取り組み、ベトナム人留学生を対象とした大学説明会（東京都）を実施した。</p>
9. オープンキャンパスの企画・運営	2017年4月～2022年3月	<p>高松大学において、オープンキャンパス関連業務の担当に任命され、オープンキャンパス(年6回)でのプログラムの企画ならびに連絡・調整業務に努めた。また、オープンキャンパスの当日には、司会を務めたり模擬授業やスポーツ経営コースの説明をしたりした。</p>
10. 大学とJリーグクラブの連携事業の企画・実施	2013年4月～2014年12月	<p>徳島ヴォルティス株式会社において、徳島大学と連携し、大学生の実践的な学びと若者層の集客を図るため、徳島大学の学生を対象としたホームゲーム運営ボランティアプログラムを企画・実施した（2年間）。さらに、同連携事業の成果を学術誌に論文として投稿した。</p>

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
2 学位論文				
1. プロスポーツ組織における人的資源管理の形成要因に関する	単	2017年3月	筑波大学 大学院博士前期課程 人間総合科学研究科 体育	<p>【指導教員：柳沢和雄】</p> <p>プロスポーツ組織（クラブ・球団）では「フロントスタッフ」という人的資源が事業活動を担っている。本研究では、第一に、4つの</p>

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2 学位論文				
研究：Jリーグクラブの事業部門を事例として			学専攻、2016年度修士学位論文	Jリーグクラブに所属するフロントスタッフを対象としたインタビュー調査により、プロスポーツ組織における、フロントスタッフが定着し難い人的資源管理実態という経営課題を示唆した。第二に、フロントスタッフの定着に成功している2つのJリーグクラブを対象とした事例研究により、定着的な人的資源管理の在り方およびそうした人的資源管理実践が形成される経営的条件（経営戦略と役割行動）を示唆した。
3 学術論文				
1. スポーツマネジメント研究における研究方法論の国際的な動向：レビュー論文のレビューをもとに	共	2025年3月	体育・スポーツ経営学研究 38：91-111	【林田敏裕、宇野博武、柴田紘希、奥田直希】 体育・スポーツ経営学における研究方法論の議論は停滞している。この問題に対する一つの解決策は、国際的なスポーツマネジメント領域における研究方法論の発展動向を把握することである。そこで、本研究では、定量的および定性的なレビューを通じて、スポーツマネジメント分野における研究方法論に関するグローバルな動向を包括的に概観することを目的とした。分析では、研究方法論に関連する18本のレビュー論文に焦点を当てた。分析の結果、以下のことが明らかになった。 (1) 2010年以降、研究方法論に関するレビュー論文は年間1~2本のペースで発表されている。この結果から、国際的にも研究方法論に特化した論文の数は特に多くはないことがわかる。 (2) 研究方法論に関するレビュー論文は、次の5つのグループに分類された。「研究動向」（3本）、「研究手法」（3本）、「普及方策」（2本）、「理論開発・応用」（6本）、「イデオロギー」（4本）の5つに分類された。各カテゴリーには、研究動向を全体的に整理した研究、新たな研究方法を提案した研究、学術的知見の普及に向けたさまざまな戦略を検討した研究、理論の展開の意義や具体的なアプローチについて論じた研究、スポーツの文化的特性に対する方法論的アプローチを探求した研究などが含まれていた。これらの傾向を踏まえて、本研究の知見は、体育・スポーツ経営学研究の方法論を発展させるためには、多様な視点とアプローチが必要であることを示している。さらに、本研究の知見は、学術団体が研究方法論の研究と議論の機会をより多く提供する必要性を強調している。
2. サービス分野におけるオペレーションの柔軟性に関する文献調査	単	2024年10月	サービソロジー論文誌 8(1) pp.11-19	サービス業では、製造業よりもオペレーション（業務遂行上）の柔軟性が組織の業績に強い影響を与える。本研究の目的は、サービス業におけるオペレーションの柔軟性に関する文献レビューを実施し、このトピックに関する研究動向を概観し、今後の研究課題を特定することである。系統的な文献収集により、2つのデータベース（Web of Science Core CollectionおよびEBSCO Business Source Premier）から28件の文献が特定された。文献レビューにより、サービス業務の柔軟性に関する研究における構成概念、理論的基盤（オペレーションズ・マネジメント研究、サービス・パースペクティブ、組織的柔軟性）、研究対象、研究デザイン、成果変数の傾向が明らかになった。特に、理論的基盤別に研究デザインの特徴を整理すると、これまでの研究では、サービス組織の文脈に即したオペレーションの柔軟性に関する構成概念を包括的に明らかにすることに限界があることが示唆された。そこで、本研究では、ジョイア・メソッドと呼ばれる質的研究法を用いてサービス組織におけるオペレーションの柔軟性に関連する構成概念を検討するという研究課題を提案した。
3. 地域密着型プロスポーツ組織のレジリエンス：PLS-SEMによる検討（査読付）	共	2024年3月早期公開	体育・スポーツ経営学研究	【前田和範、宇野博武】 本研究では、地域密着型プロスポーツ組織が危機や変化に対応する能力として組織レジリエンスに着目し、その構造および先行要因と結果要因を探る概念モデルを構築し、PLS-SEMによる検証を行った。日本の地域密着型プロスポーツ組織の管理職（n=36）への質問紙調査の結果、組織レジリエンスは資源保有と対応力という2次元で構成される概念であることが明らかになった。さらに、企業家的志向性が対応力に、地域的信頼が資源保有に正の影響を及ぼすことが明らかになり、対応力が社会パフォーマンスに正の影響を、COVID-

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
4. 国内におけるプロスポーツ経営研究の統合的文献レビュー（査読付）	共	2024年3月	体育・スポーツ経営学研究、第37巻	19による影響からの回復月数に負の影響を及ぼすことが明らかになった。 【宇野博武、山口志郎】 本研究では、国内のスポーツ経営学関連ジャーナルに掲載されたプロスポーツ経営に関する論文を対象に、トピックモデルというテキストマイニング分析を実施し、国内プロスポーツ経営研究の蓄積内容および動向を客観的・数量的に提示した。7誌から113編のプロスポーツ経営研究が抽出され、その内容は16の研究トピックに集約された。
5. 地方における地域密着型プロスポーツチームによるCOVID-19の対応と組織レジリエンス：ファジアーノ岡山と高知ファイティングドッグスの事例研究（査読付）	共	2024年3月	体育・スポーツ経営学研究、第37巻	【宇野博武、前田和範】 本研究では、ファジアーノ岡山と高知ファイティングドッグスという2つの地方における地域密着型プロスポーツチームがどのようにCOVID-19パンデミックに対応したのか、その実態を記述した。さらに当該の事例について組織レジリエンスの観点から分析を実施し、プロスポーツチームにおける組織レジリエンスの先行要因として「企業家的志向性」ならびに「社会的資源」の2点を示唆した。
6. スポーツマネジメント研究の計量書誌学的レビューに基づく研究推進方策の検討（査読付）	共	2023年9月	スポーツマネジメント研究、15巻2号、pp.23-42	【宇野博武、林田敏裕、柴田紘希】 本研究では、国内外における主要なスポーツマネジメント専門誌に掲載された近年の学術論文を計量書誌学的手法によって分析した（生産性分析および研究協力分析）。分析の結果、国内外におけるスポーツマネジメント分野の研究活動に関する実態を示すデータが得られた。このデータに基づき、本研究では日本のスポーツマネジメント研究を推進する具体的な方策について議論した。
7. ファジアーノ岡山スポーツクラブにおける新事業「Fagiversity」の事例研究：「みる」スポーツプロダクト概念の再検討（査読付）	単	2023年3月	体育・スポーツ経営学研究、36巻、pp.61-75	本研究では、新規顧客の開拓に成功したプロスポーツ組織によるプロダクト開発の事例として、ファジアーノ岡山（Jリーグクラブ）における新事業「Fagiversity」の実践を取り上げた。事例研究により、同新事業の実施プロセスならびにそこにおけるフロントスタッフのプロダクト観を記述することで、本研究ではプロダクトの開発プロセスについて理解を深めるとともに、プロダクトの概念そのものの再検討がおこなわれた。
8. エージェンシー概念から捉えるみるスポーツプロダクトのオペレーション：Jリーグクラブにおけるホームゲームオペレーションの刷新過程を事例として（査読付）	単	2023年3月	体育経営管理論集、15巻、pp.1-8	本研究では、プロスポーツ組織のオペレーションを論じる既存研究の抱える設計主義的な技術観（人間中心主義）の問題を指摘し、アクターネットワーク理論に依拠した事例研究により、当の理論的前提が不十分であることを議論した。
9. スポーツファン研究の理論的課題：「飽き」研究に向けた予備的考察	単	2020年9月	高松大学研究紀要、74、pp.1-19	本研究では、スポーツファン研究における観戦動機論ならびにチーム・アイデンティフィケーション論の知見を整理し、従前のスポーツファン研究が、ファンの行為を外要因に規定された明瞭な意図にもとづいたものと想定してきたことを指摘した。その上で、ファンの十全に意図的ではない自省的な振る舞いを記述し概念化するというスポーツ経営研究における理論的課題を指摘した。そして、この理論課題に相応しい研究対象としてファンの「飽き」現象の可能性を論じた。
10. 北米スポーツマネジメント学会の研究動向：Journal of Sport Management（2010-2017年）のレビュー	共	2020年9月	高松大学研究紀要、74、pp.1-24	【宇野博武、林田敏裕、柴田紘希、柳沢和雄】 本研究では、海外の主要なスポーツマネジメント研究ジャーナルである“Journal of Sport Management”に2010年から2017年にかけて掲載された282編の実証研究のレビューを行った。本研究により、海外（北米）におけるスポーツマネジメント研究の理論分野と経営領域あるいは研究手法の傾向が、数量的/質的に示された。
11. プロスポーツチーム組織におけるフロントスタッフの役割と	単	2019年2月	高松大学研究紀要、71、pp.1-24	本研究では、JリーグとBリーグに所属する2クラブを対象とした事例研究により、ホームゲームの産出に関わるフロントスタッフの役割と仕事の内実を示唆した。本研究により、フロントスタッフは、

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
仕事：「ホームゲーム」の産出に着目して				
12. プロスポーツ経営研究の動向と課題	単	2018年7月	高松大学研究紀要、70、pp.1-34	リーグの設定する競技プログラムを前提として、一定のコンセプトのもと、シーズン計画を作成し、その計画を個々のホームゲームの試合運営関連資料へ落とし込み、試合当日にその運営を担うことでホームゲームを生産していることが示唆された。 本研究では、プロスポーツ経営に関する先行研究187編をレビューし、国内のプロスポーツ経営研究の動向を示した。本研究により、これまで「観戦者行動」「経営資源」「チーム・統括団体」「経営戦略」「社会貢献活動」「方法論・研究動向」「関連事業」「イノベーション」「組織」「経営評価」「スポンサー」カテゴリーのプロスポーツ経営研究が行われてきたことが示唆された。
13. プロスポーツ組織におけるフロントスタッフに対する人的資源管理の実態と課題（査読付）	共	2017年10月	体育・スポーツ経営学研究、31(1)、pp.24-38	【山下博武、柳沢和雄】 本研究では、4つのJリーグクラブに所属するフロントスタッフを対象としたインタビュー調査により、プロスポーツ組織における人的資源管理の実態を示唆するとともに、「定着し難いフロントスタッフ」というプロスポーツ経営上の課題を指摘した。
14. 大学とJクラブの連携によるスポーツボランティア活動の評価：社会人基礎力に着目して（査読付）	共	2016年3月	体育・スポーツ経営学研究、29(1)、pp.33-48	【山下博武、行實鉄平】 本研究では、Jクラブと大学の連携による「試合運営ボランティア体験プログラム」を企画・実践した。そして、参加学生を対象とした「社会人基礎力」に関するアンケート調査により、参加学生がプログラムを通して社会人基礎力を有意に向上させていることを示唆した。
15. スポーツ・ボランティアに関する研究動向：スポーツ経営学からの批判的考察	共	2015年12月	徳島大学人間科学研究、23(1)、pp.39-55	【山下博武、行實鉄平】 本研究では、スポーツボランティアに関する61件の先行研究をレビューし、国内のスポーツボランティア研究の動向を示した。本研究により、これまで「事例報告」「理論・実態」「参加行動」「継続行動」「意識変容」「その他」カテゴリーのスポーツボランティア研究が行われてきたことが示唆された。
16. 徳島ヴォルティスにおける運営ボランティア参加学生の意識変容プロセス（査読付）	共	2015年3月	体育・スポーツ経営学研究、28(1)、pp.33-51	【山下博武、行實鉄平】 本研究では、大学生がJクラブの試合運営ボランティアを体験する産学連携プログラムを企画・実践した。そして、参加学生を対象としたグループインタビュー調査により、参加学生が「サポーターからの影響」を起点として、スポーツボランティアやJリーグクラブに関する意識を変容させていくプロセスを示唆した。
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
1. 国内外におけるスポーツマネジメント研究の計量書誌学的レビュー	共	2023年2月27日	日本体育・スポーツ経営学会	【宇野博武、林田敏裕、柴田紘希、奥田直希】 日本体育・スポーツ経営学会が主催する第69回研究集会「海外の研究動向と日本への示唆」においてゲストスピーカーとして、上記学術論文「スポーツマネジメント研究の計量書誌学的レビューに基づく研究推進方策の検討」の成果を報告し、議論に参加した。
2. 国内におけるプロスポーツ経営研究の動向と課題	共	2022年12月12日	日本体育・スポーツ経営学会および日本体育・スポーツ・健康学会 体育経営管理専門領域	【宇野博武、山口志郎】 学会の主催する「若手研究者による研究報告会」において研究成果の報告をおこなった。具体的には、国内のプロスポーツ経営に関する学術論文を対象としたトピックモデル（テキストマイニング）による研究トピックの分析結果を報告し、国内におけるプロスポーツ経営研究の動向と課題について議論した。
3. プロスポーツクラブにおけるみるスポーツプロダクト開発プロセスに関する事例研究	単	2018年2月	日本体育学会体育経営管理専門領域 2017年度 第4回研究会（早稲田大学早稲田キャンパス）	日本体育学会体育経営管理専門領域の研究助成を受け、プロスポーツ組織におけるスポーツプロダクトの開発活動をテーマとした研究に取り組んだ。本研究では、その助成事業の成果報告として、JリーグとBリーグに所属するクラブを対象とした事例研究の結果を報告した。
4. プロスポーツ組織における人的資源管理の形成要因に関する研究：Jリーグクラブの事業部門を事例として	共	2017年2月	日本体育学会体育経営管理専門領域 2016年度 第4回研究会（筑波大学東京キャンパス）	【山下博武、柳沢和雄】 日本体育学会体育経営管理専門領域の研究助成を受け、プロスポーツ組織における人的資源管理をテーマとした研究に取り組んだ。本研究では、その助成事業の成果報告として、2つのJリーグクラブを対象とした事例研究の結果を報告した。
5. プロスポーツ組織に	共	2016年10月	日本体育学会体育	【山下博武、柳沢和雄】

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1. 学会ゲストスピーカー				
おける人的資源管理の形成要因に関する一考察：Aクラブの事業部門を事例として			経営管理専門領域 2016年度 第1回研究会（早稲田大学 早稲田キャンパス）	日本体育学会体育経営管理専門領域の依頼を受け、プロスポーツ組織によるフロントスタッフの定着を促す人的資源管理の有り様と形成要因を探るため実施されたJリーグクラブの事例研究の成果を、研究会において報告した。
2. 学会発表				
1. 口頭発表「プロスポーツ組織におけるオペレーションの柔軟性：Gioia法による構成概念の質的検証」	共	2024年8月29日～31日	日本体育・スポーツ・健康学会第74回大会（福岡大学）	【宇野博武、山口志郎】 本研究では、Jリーグクラブを分析対象として、Gioia法という質的研究法を用い、プロスポーツ組織におけるオペレーションの柔軟性に関する理論的・経験的に頑健な構成概念を明らかにすることを目的とした。Gioia法は独自のコーディング・プロセスにより、データに基づく帰納的分析と既存理論を踏まえた演繹的分析とを繰り返すことができる。データは、Aクラブ（仮名）における管理職を中心に経営者およびスタッフ合計6名への半構造化インタビュー（9回）によって得た。分析の結果、変換モデルと価値共創モデルの両事業観を統合した3次元（スポーツ組織の柔軟性、エンカウンター柔軟性、スポーツサービスの柔軟性）の構成概念が抽出された。本研究の成果は、古典的なスポーツ事業論に改めて光を当てるものであり、本学問領域における事業概念を再検討する必要性を喚起するものと言える。
2. 口頭発表「国外スポーツマネジメント研究における研究方法論の動向：レビュー論文のレビューをもとに」	共	2024年3月16日～17日	日本体育・スポーツ経営学会第47回学会大会（久留米大学・御井キャンパス）	【宇野博武、林田敏裕、柴田紘希、奥田直希】 本研究では、スポーツマネジメント分野の研究法論に関する研究蓄積を把握するとともに、体育・スポーツ経営学における研究法論に関する今後の課題について示唆を得るため、国外ジャーナルに掲載されたスポーツマネジメントに関するレビュー論文のレビューを実施した。系統的に文献を収集した結果、127編のレビュー論文が収集され、17編の研究法論に関する研究が特定された。17編の論文は帰納的に6つのカテゴリーに分類され、内容把握がおこなわれた。
3. 口頭発表「プロスポーツ組織におけるオペレーションの柔軟性：グラウンデッドセオリー・アプローチによる構成概念の質的検証」	共	2023年12月17日	日本商業学会 第13回 全国研究報告会（明治学院大学・白金キャンパス）	【宇野博武、山口志郎】 オペレーションの柔軟性とは、事業活動上において生じる様々な不確実性へ効果的に対処するための組織的な性質と言える。サービス組織では、共同生産性などサービス商品の特性により、製造企業以上にオペレーションの柔軟性の組織パフォーマンスに対する影響が強いことがわかっている。そこで本研究では、プロスポーツ組織を事例としたGioiaメソッドによる質的研究にもとづき、サービス組織におけるオペレーションの柔軟性を捉えるより頑健な概念枠組みを検討した。
4. 口頭発表「オペレーションの柔軟性に関する文献レビュー」	単	2023年5月	兵庫体育・スポーツ科学第34回学会大会（神女子大学）	サービス分野におけるオペレーションの柔軟性に関する文献レビューの成果を報告した。具体的には、システムティック・レビューの手続きに準じて、サービス分野においてオペレーションの柔軟性について議論した国外文献を特定した。ナラティブ・レビューの手続きに準じて、以上の文献から示唆される同研究トピックの動向ならびに今後の研究課題について考察をおこなった。
5. 口頭発表「プロスポーツ組織における組織レジリエンスに関する研究：予備調査の結果報告」	共	2023年3月	日本体育・スポーツ経営学会第46回大会（早稲田大学）	【宇野博武、前田和範】 プロスポーツチームの組織レジリエンスに関する計量的研究の予備調査の結果を報告した。
6. 口頭発表「国内のプロスポーツ経営研究に関する文献レビュー」	単	2022年12月	中四国商経学会第63回大会（オンライン）	国内のスポーツ経営学関連ジャーナル6誌から103編のプロスポーツ経営研究論文を抽出し、その計量書誌学的な分析をおこなった。
7. 口頭発表「みるスポーツプロダクトのオペレーションとエージェンシー：Jリーグクラブ・ファジアーノ岡山にお	単	2022年3月	日本体育・スポーツ経営学会第45回大会（オンライン）	Jリーグクラブ・ファジアーノ岡山におけるコロナ禍でのホームゲーム・オペレーションの刷新過程を事例として、オペレーション活動における物質エージェンシーの役割を確認することで、従来の設計主義的なオペレーション理解に対して問題提起を行った。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
るホームゲームオペレーションの変容過程を事例として」				
8. 口頭発表「スポーツ組織の変化対応的な組織能力に関する探索的事例研究：プロ野球独立リーグ球団のコロナ対応を事例として」	共	2022年3月	日本体育・スポーツ経営学会第45回大会（オンライン）	【前田和範、宇野博武】 高知ファイティングドッグスという四国アイランドリーグ球団におけるコロナ対応過程を事例として、プロスポーツ組織における変化対応的な組織能力について考察を行った。
9. 口頭発表「スポーツマネジメントに関する研究動向(3)：研究の推進体制に着目して」	共	2022年3月	日本スポーツマネジメント学会第14回大会（オンライン）	【林田敏裕、宇野博武、柴田紘希】 国内外の主要スポーツマネジメントジャーナルに2000年から2020年にかけて掲載された論文1,863編の計量書誌学的分析により、スポーツマネジメント研究の推進体制について考察を行った。
10. 口頭発表「スポーツ組織の変化対応的な組織能力に関する探索的事例研究：Jリーグクラブのコロナ対応を事例として」	共	2022年3月	日本スポーツマネジメント学会第14回大会（オンライン）	【宇野博武、前田和範】 Jリーグクラブのコロナ対応過程を事例として、プロスポーツ組織における変化対応的な組織能力（ダイナミック・ケイパビリティ）について考察を行った。
11. スポーツ・オペレーション研究の方法論的課題：ポストブルール人類的アプローチの検討	単	2021年12月	中四国商経学会第62回大会（オンライン）	プロスポーツ組織におけるオペレーション活動に関する研究に向けて、ANTなどいわゆる「存在論的転回」という人類学的知見を整理し、今後の研究課題について議論を行った。
12. 口頭発表「スポーツマネジメントに関する研究動向(2)：テキストマイニングによる学術論文(2010-2020年)の分析」	共	2021年9月	日本体育・スポーツ・健康学会第71回大会（オンライン）	【宇野博武、柴田紘希、林田敏裕】 国内外の主要なスポーツマネジメントジャーナル5誌に2010年から2020年の間に掲載された学術論文1,323編をテキストマイニングにより分析した。文系の結果、43の研究トピックが抽出され、スポーツマネジメント研究の瞳孔が示唆された。
13. 口頭発表「スポーツ鑑賞能力の変容/非変容過程とその影響要因に関する研究：プロサッカークラブのファン・サポーターを事例として」	共	2021年3月	日本体育・スポーツ経営学会第44回大会（オンライン）	【高原健人、宇野博武】 本研究では、Jリーグクラブのファン13名を対象とした事例研究により、1年間における観戦者のスポーツ鑑賞能力の変容実態(向上・維持・低下)を明らかにした。また、その変容を支える具体的な社会的条件および経営的条件を示した。
14. 口頭発表「スポーツファシリティマネジメントに関する理論的検討：情報経営研究における社会物質性論を手がかりとして」	単	2021年3月	日本体育・スポーツ経営学会第44回大会（オンライン）	本研究では、情報経営研究における社会物質性論の理論的背景ならびに記述的意義を整理し、スポーツファシリティマネジメント研究の可能性と今後の課題を検討した。
15. 口頭発表「スポーツマネジメントに関する研究動向(1)：2016-2020年における学術論文の基礎的分析」	共	2021年3月	日本スポーツマネジメント学会第13回大会（オンライン）	【柴田紘希、宇野博武、林田敏裕】 本研究では、国内外における主要なスポーツマネジメントジャーナルに2016年から2020年にかけて掲載された論文660件を分析した。とりわけ、本研究では、論文キーワードのテキストマイニングを行い、最近の研究トピック（19トピック）を示した。
16. 口頭発表「新たな便益を創出するスポーツプロダクトの開発活動：ファジアーノ岡山による新事業「Fagiversity」を事	単	2020年8月	日本体育・スポーツ経営学会第43回大会（オンライン）	大学生に特化した新たな便益を創出した「Fagiversity」（Jリーグクラブ・ファジアーノ岡山）という新事業の実施過程を対象とした事例研究の成果について報告を行った。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
例として」				
17. 口頭発表「スポーツプロダクトにおける便益創出プロセスに関する理論的検討：脱論理実証主義的な製品開発理論をめぐって」	単	2020年2月	日本スポーツマネジメント学会第12回大会（東海大学）	本研究では、企業経営研究における製品開発論の方法論にまで踏み込んだ理論展開を整理し（論理実証型→意味構成・了解型→市場創造型）、新たな便益を創出するスポーツ観戦サービスの開発活動を分析するフレームワークを提示した。
18. 口頭発表「プロスポーツチーム組織フロントスタッフを主体とした競技会の開発動向：パ・リーグ6球団におけるホームゲームに関するニュースリリースの分析」	単	2019年3月	日本体育・スポーツ経営学会第42回大会（静岡大学）	本研究では、2017年にNPBのパ・リーグ6球団が発表したニュースリリース(1,080件)の内容分析を行い、プロスポーツ組織によるスポーツ観戦サービスの開発活動の実態について議論を行った。
19. 口頭発表「プロスポーツ組織における「みる」スポーツ・プロダクト開発プロセスに関する理論的検討」	単	2018年9月	日本体育学会第69回大会（徳島大学）	本研究では、企業経営研究における「製品の革新性」概念を検討し、プロスポーツ組織の生産物であるスポーツ観戦サービスの「革新性」の要件（ゲームのコンセプトあるいは/および機能の新規性）を示唆した。
20. 口頭発表「プロスポーツクラブにおけるみるスポーツプロダクト開発プロセスに関する事例研究」	単	2018年3月	日本体育・スポーツ経営学会第41回大会（北翔大学）	上記学術論文「プロスポーツチーム組織におけるフロントスタッフの役割と仕事」の内容について口頭発表を行った。
21. 口頭発表「プロスポーツ経営研究の動向と方法的課題（1）」	単	2017年9月	日本体育学会第68回大会（静岡大学）	上記学術論文「プロスポーツ経営研究の動向と課題」の内容について口頭発表を行った。
22. 口頭発表「プロスポーツ組織の人的資源管理に関する事例研究：Jリーグクラブのリテンション・マネジメントに着目して」	共	2017年3月	日本体育・スポーツ経営学会第40回大会（鹿児島大学）	【山下博武、柳沢和雄】 修士論文の成果の一部について口頭発表を行った。
23. 口頭発表「プロスポーツ組織における人的資源管理の形成要因に関する研究：Jリーグクラブの事業部門を事例として」	共	2016年12月	日本スポーツマネジメント学会第9回大会（近畿大学）	【山下博武、柳沢和雄】 修士論文の成果の一部について口頭発表を行った。
24. 口頭発表「NASSMにおけるSport Management研究の動向：Journal of Sport Management（2010-2015年）のレビュー」	共	2016年3月	日本体育・スポーツ経営学会第39回大会（立命館大学）	【遠藤未来彦、熊田吾一、崎原知美、柴田紘希、島海介、林田敏裕、山下博武、柳沢和雄】 上記学術論文「北米スポーツマネジメント学会の研究動向」の内容の一部について口頭発表を行った。
25. 口頭発表「オープンリーグシステムのプロスポーツにおける人的資源管理の課題」	共	2016年3月	日本体育・スポーツ経営学会第39回大会（立命館大学）	【山下博武、柳沢和雄】 上記学術論文「プロスポーツ組織におけるフロントスタッフに対する人的資源管理の実態と課題」の内容について口頭発表を行った。
26. 口頭発表「大学とJクラブの連携によるス	共	2015年3月	日本体育・スポーツ経営学会第38回	【山下博武、行實鉄平】 上記学術論文「大学とJクラブの連携によるスポーツボランティア

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
ボーツボランティア活動の評価：社会人基礎力に着目して」 27. 口頭発表「徳島ヴォルティスにおける運営ボランティア参加学生の意識変容プロセス」	共	2014年3月	大会（白鷗大学） 日本体育・スポーツ経営学会第37回大会（新潟医療福祉大学）	活動の評価」の内容について口頭発表を行った。 【山下博武、行實鉄平】 上記学術論文「徳島ヴォルティスにおける運営ボランティア参加学生の意識変容プロセス」の内容について口頭発表を行った。
3. 総説				
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1. 若手研究者ワークショップ「若手研究者のための共同研究のすすめ」	共	2024年3月	日本体育・スポーツ経営学会第47回学会大会（久留米大学・御井キャンパス）	学会プログラムの一部として実施されたワークショップ「若手研究者のための共同研究のすすめ」において、鹿屋体育大学の棟田雅也先生とともにコーディネーターを務めた。
2. 研究報告「わが国におけるスポーツ経営人材養成研究の現状と今後の課題：スポーツ経営人材の力量に関する文献レビュー」	単	2020年12月	高松大学 地域経済情報研究所研究会	高松大学の地域経済情報研究所の依頼を受け研究報告を行った。具体的には、システムティック・レビューの手法に倣い、スポーツ組織の経営者あるいは管理者を対象とした国内論文24件を抽出し、それらの知見をコンピテンシーのフレームワークにより整理・分析した。
3. 研究報告「スポーツプロダクトの価値創出プロセス：Jリーグクラブの新規事業を事例として」	単	2019年12月	高松大学 地域経済情報研究所研究会	高松大学の地域経済情報研究所の依頼を受け、上記学会発表「ファジアーノ岡山スポーツクラブにおける新事業『Fagiversity』の事例研究」の内容の一部を報告した。
4. 研究報告「プロスポーツにおけるスポーツプロダクトのエンターテインメント化の実態と問題性：マリナーズ改革の事例を手掛かりとして」	単	2019年8月	2019年度 日本体育学会 体育経営管理専門領域 合宿研究会（東海大学熊本キャンパス）	千葉ロッテマリナーズの経営改革を事例としてプロスポーツのエンターテインメント化の実態と問題を検討・報告した。
5. 研究報告「「みる」スポーツ・プロダクトの開発プロセスに関する研究：プロスポーツ組織を事例として」	単	2018年9月	2018年度 日本体育学会 体育経営管理専門領域 合宿研究会（国際武道大学）	上記学術論文「プロスポーツチーム組織におけるフロントスタッフの役割と仕事」の内容の一部を報告した。
6. 研究報告「プロスポーツ経営に関する研究動向と方法論的課題（1）」	単	2017年7月	高松大学 地域経済情報研究所研究会	高松大学の地域経済情報研究所の依頼を受け、上記学術論文「プロスポーツ経営研究の動向と課題」の内容を報告した。
6. 研究費の取得状況				
1. 戸部真紀財団 2023年度 研究助成	単	2023年10月	公益財団法人 戸部真紀財団	研究課題名「代替テンプレート研究戦略によるサービス・イノベーション理論の統合的検証」が助成対象に選定され、助成金の支給を受けた。
2. 論文投稿促進型研究助成	共	2022年8月	日本体育・スポーツ経営学会	【宇野博武、前田和範】 研究課題「プロスポーツ組織における組織レジリエンスとその先行要因の解明：わが国のプロスポーツクラブ・球団を対象とした計量的研究」が助成対象（若手会員対象助成）に選定され、助成金の支給を受けた。
3. 2021年度 研究助成	共	2021年7月	日本スポーツマネジメント学会	【宇野博武、林田敏裕、柴田紘希】 研究課題「スポーツマネジメント研究（2000-2020年）の課題と

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
6. 研究費の取得状況				
4. 2021年度 プロジェクト研究助成	単	2021年7月	日本体育・スポーツ・健康学会 体育経営管理専門領域	展望：計量書誌学的分析を用いて」が助成対象に選定され、助成金の支給を受けた。 研究課題「スポーツ事業の革新とスポーツ施設のエージェンシーに関する研究：Jリーグクラブにおけるホームゲーム・オペレーションの刷新過程を事例として」が助成対象に選定され、助成金の支給を受けた。
5. 2019年度 学生研究助成	共	2019年7月	日本体育学会 体育経営管理領域	【高原健人、宇野博武】 ゼミ生の研究課題「スポーツ鑑賞能力の変容過程とその影響要因に関する研究：プロサッカークラブのファン・サポーターを事例として」が助成対象に選定され、助成金の支給を受けた。
6. 学術研究助成基金助成金（若手研究）	単	2018年4月	日本学術振興会	研究課題「プロスポーツ組織における「みる」スポーツ・プロダクト開発システムモデルの構築」が科研費・若手研究に採択され、研究費の支給を受けた（課題番号：18K17841、3年間）。
7. 2017年度 プロジェクト研究助成	単	2017年8月	日本体育学会 体育経営管理領域	研究課題「「みるスポーツ」の開発・生産システムの解明：プロスポーツ組織を事例として」が助成対象に選定され、助成金の支給を受けた。
8. 2016年度 学生研究助成	共	2016年8月	日本体育学会 体育経営管理領域	【山下博武、柳沢和雄】 研究課題「プロスポーツ組織における戦略的人的資源管理の規定要因に関する研究」が助成対象に選定され、助成金の支給を受けた。

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2022年10月～現在	日本商業学会
2. 2017年4月～現在	中四国商経学会
3. 2017年4月～現在	日本体育学会員（2018年8月：日本体育学会第69回大会組織委員）
4. 2016年9月～現在	日本スポーツマネジメント学会
5. 2012年4月～現在	日本体育・スポーツ経営学会（2021年4月～2025年3月：編集委員会幹事）